

～大紀町で受けられる各種がん検診と肝炎ウイルス検査について～

大紀町のがん検診ガイド

検診の
申込方法

4 月中に対象者の世帯毎に、がん検診の案内と申込書を送付します。
検診ご希望の方は、検診申込書を本庁健康福祉課または各支所へご提出
ください。



大紀町で受けられるがん検診

検診の種類 推奨される受診間隔	内容	自己負担額	受診方法	対象年齢（当該年度の4月1日現在）									
				20	30	40	50	60	70	80			
肺がん（結核）検診 1年1回	胸部レントゲン	100 円	集団検診			20歳以上							
胃がん検診 2年1回						20歳以上							
大腸がん検診 1年1回	バリウム検査	1000 円	集団検診			20歳以上							
前立腺がん検診 2年1回	便潜血反応検査	500 円	集団検診			20歳以上							
乳がん検診 2年1回	マンモグラフィ	500 円	集団検診				40歳以上						
乳がん検診 2年1回		1300 円	医療機関				40歳以上						
乳がん検診	エコー	1000 円	集団検診			30歳以上							
子宮頸がん検診 2年1回						20歳以上							
	細胞診	1000 円	集団検診			20歳以上							
		1400 円	医療機関			20歳以上							

大紀町で受けられるその他の検診

検診の種類	内容	料金	受診方法	対象年齢（当該年度の4月1日現在）									
				20	30	40	50	60	70	80			
肝炎ウイルス検査	血液検査	500 円	集団検診					40歳以上の未受診者					
ピロリ菌検査	便検査	無料	医療機関			20歳～70歳の未受診者							
骨密度検診	超音波検査	無料	集団検診			20歳以上							
歯周疾患検診	問診・診察	無料	医療機関			20歳～70歳							

がんは早期発見が大切です

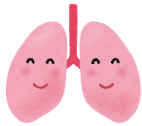


がんは、早期に発見できれば治る確率がぐんと高くなりました。しかし、早期には自覚症状がないため、定期的に検診を受けることをお勧めします。

肺がん検診（結核検診）

胸部エックス線検査

がん死亡数のトップ



肺がんは喫煙との関係が深いですが、非喫煙者にも発生します。
結核検診も兼ねていますので、特に65歳以上で1年以内に胸部エックス線撮影を受けていない方は、年に1回は受けましょう。

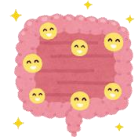
*立位が自力で保持できない方は検査できないことがあります。

大腸がん検診

2日間の便による便潜血検査

働き盛りの年代で増加

大腸がんは40歳代から増加します。
早期は自覚症状がありません。
年に1回は検診を受けましょう。



*痔出血や生理中は、便の採取を避けてください。

胃がん検診

バリウムによる胃透視

日本人に多いがん

胃がんは日本人がかかりやすいがんのひとつです。
胃がん以外にもポリープや潰瘍を発見し、早期に治療に結びつけることもできます。ピロリ菌除菌をした方も受けましょう。



*バリウムを飲み込む際に誤って気管に入ってしまうと肺炎や呼吸困難、場合によっては生命の危険が生じる可能性があります。

*検査技師の指示が聞き取りにくい方や、透視台から転落の危険がある方は検査をお断りする場合があります。

乳がん検診

女性のみ

マンモグラフィ検査・エコー検査

検診と自己触診で早期発見



乳がんは、30歳代から増加し50歳代前後を中心に最も多くなります。40歳以上の方は、マンモグラフィ検査をお勧めします。

*妊娠やその可能性のある方、授乳中の方、豊胸手術、ペースメーカーを挿入されている方は検査することができません。主治医にご相談ください。

子宮頸がん検診

女性のみ

子宮頸部粘膜の細胞診



HPV ワクチン接種をした方も検診を受けましょう

子宮頸がんは、20~30歳代の若い世代に増加し、HPV（ヒトパピローマウイルス）の感染が発症に深く関係しています。

*妊娠やその可能性のある方、授乳中の方、生理中の方は検査はできません。

肝炎ウイルス検査

血液検査

検査を受けたことがない方は 肝炎検査を受けましょう

肝硬変や肝がんになる可能性が高いB型・C型肝炎の原因は、血液を介した肝炎ウイルス感染によるものが多くを占めます。



注意事項

- ◆自覚症状がある人は検診の対象となりません。
- ◆治療中や経過観察中の方は、主治医にご相談ください。
- ◆がん検診で100%がんが発見されるわけではありません。検診後に気になる症状がある場合には、早めに医療機関を受診しましょう。またがんではないにも関わらず、がんの可能性を診断されることもあります。

前立腺がん検診

男性のみ

血液検査

近年は日本でも増加

前立腺がんは、加齢とともに増加します。他のがんにくらべて進行が遅いのが特徴ですが、進行すると排尿障害などを引き起こします。